

## 事務局報告

## 第102回(2026年度第1回)幹事会 議事要録

日時:2025年10月21日(火) 18:30~20:25

場所:Zoomによるオンライン会議

出席者:百原会長,上條庶務幹事,佐々木会計幹事,渋谷広報幹事,浦行事委員長,吉田編集委員長,大山副編集委員長

## 報告事項

## 1. 会員動向(庶務)

2025年9月30日現在の会員数が報告された。会員動向:名誉会員1名,賛助会員1社,一般会員227名(-1)名,シニア会員34名(-2),学生会員39(-1)名,団体会員2団体であった。

## 2. 会費納入状況と長期滞納者への対応について(会計)

会費納入状況が報告され,9月末までに287件(95%)の支払いを確認した。3年以上滞納している4名について督促していくことになった。

## 3. 植生史研究の編集状況について(編集)

第33巻第2号を9月25日に刊行した。34巻1号(12月予定,特集号を予定)と第34巻2号(3月予定)を準備中である旨が報告された。

## 4. 第40回大会(岡山),第53回談話会について(行事)

大会ホームページが開設され,第二報および発表申し込み受付が開始されたことが報告された。近くに第三報の内容を固めることが報告された。第53回談話会が島根県松江市にて,第四紀学会との共催で開催され5名の参加があったことが報告された。なお本学会では講師謝礼を分担で負担したことも報告された。

## 5. 第8回論文賞審査結果について(庶務)

審査の結果,2件の原著論文に決定したことが報告された。

## 6. 自然史学会連合報告(連合担当)

特になし。

## 7. その他

特になし。

## 審議事項

## 1. 内規の改正案(論文賞に関する内規)について(庶務)

<論文賞に関する内規>について第2条に「なお,論文賞審査委員に対象年度の編集委員を含まない。」の文言を付記することが了承された。

## 2. PDF公開のアンケート調査結果について(編集)

会誌のオープンアクセス化に関するアンケート調査の結果が報告された。14件の回答のうち全員が賛成したも

のの,実施による会員数減少の懸念が意見としてあったことが報告された。なお回答数が少ないためアンケートの回答期限を11月18日までに延長することになった。

3. 第41回大会(大阪),第54回談話会について(行事)  
浦委員長より第41回大会について,大阪公立大学にて開催予定で,40周年記念大会として実施するかどうかについて幹事会の意見を求めた。結果,40周年記念大会として開催し,内容について50代のベテランと若手を組み合わせた発表で構成することが了承された。若手については奨励賞受賞者を中心に打診してみる意見が出された。第54回談話会は第40回岡山大会に合わせて実施されることが了承された。

## 4. 次号ニュースレターの内容について(広報・渉外)

大会の内容が固まり次第,大会第三報を発行すること,アンケート回答期限の延長をメール配信する点が了承された。

## 5. 次回幹事会について

11月28日午後3時に新旧合同幹事会,翌29日に評議員会を開催することが,了承された。次回の会議は総会前となり,資料の準備が必要であることが確認された。

## 6. その他

- ・会計監査が第15期評議員になり重複できないため,会計監査を新規に立てることが了承された。
- ・渋谷広報・渉外よりウェブサイトのセキュリティ問題について報告された。セキュリティ更新の必要性が議論され,詳細を確認してから対応することになった。

## 第103回(2026年度第2回)幹事会 議事要録

日時:2025年11月28日(金) 15:00~17:15

場所:岡山理科大学・50周年記念館 2Fラウンジ

対面およびZoomによるオンラインハイブリッド会議

出席者:百原会長,上條庶務幹事,佐々木会計幹事(オンライン),渋谷広報幹事,浦田行事委員長,柳原新行事委員長,吉田編集委員長(オンライン),大山副編集委員長

## 報告事項

総会資料の読み合わせを行った。

## 審議事項

1. 会誌「植生史研究」のバックナンバーの整理について(庶務)

バックナンバーの在庫リストを確認し,永久保存分各号

3冊分以外はメーリングリストで希望者への無償配布を呼びかけることにした。

## 2. PDF公開のアンケート調査結果、および総会でのフルオープンアクセス化に関する審議について（編集）

会誌のフルオープンアクセス化に関する延長後のアンケート調査の結果が報告された。賛成多数のためフルオープンアクセス化を進めることで了承された。なお総会において審議にかけるため、フルオープンアクセス化の必要性に関するパワーポイント資料を準備することとなった。

## 3. 2026年度予算案について（会計）

物価上昇に伴い会場費用がかさんでいることや、将来的に大会の引き受けなどが円滑に進むように大会準備金を25万円に増額する点、バス代や講師謝礼に対応するために談話会・巡検経費として20万円を計上する点が説明され、了承された。

## 4. 第41回大会（大阪）について（行事）

浦委員長より第41回大会について、大阪公立大学にて12月5・6日開催に決定したことが報告された。また内容について、コーディネーターを設定して準備を進めていく点が了承された。

### 2026年度評議員会 議事録

日時：2025年11月29日（土）10:00～12:00

場所：岡山国際交流センター

出席者：矢部 淳・井上 淳 評議員

百原会長、上條庶務幹事、渋谷広報・渉外幹事、浦田行事委員長、柳原行事委員長、大山副編集委員長

#### 報告事項

1. 2025年度の事業報告および決算報告・会計監査報告（総会資料）を承認した。

2. 2026年度事業計画の幹事会案を審議し、承認した。主な案件は以下の通りである。

1) 会誌「植生史研究」のフルオープンアクセス化については、政府方針であり、科研申請でも必須になる点、他学会でも推進している点、若手研究者のキャリア形成でも重要である点が共通認識され、丁寧に説明しつつ早急に対応していく点が確認された。

2) 会誌「植生史研究」のフルオープンアクセス化の推進とともに、会員サービスの更なる向上のために、入会してもらう仕組みを考えていくことが提案された。談話会における非会員からの参加費の徴収などの差別化、オンライン企画の実施、参加者からのアンケートの実施などが提案された。

3) 2026年度予算案について、物価上昇に伴い会場費

用がかさんでいることや、将来的に大会の引き受けなどが円滑に進むように大会準備金を25万円に増額する点、バス代や講師謝礼に対応するために談話会・巡検経費として20万円を計上する点が説明され、了承された。

### 2026年度総会議事要録

日時：2025年11月30日（日）10:55～11:50

場所：岡山理科大学岡山キャンパス 50周年記念館

議長：中山誠二

#### 1. 報告事項

##### 1. 2025年度事業報告

###### 1-1. 庶務

1) 会員動向（2024年10月1日～2025年9月30日現在）：名誉会員1名、賛助会員1社、一般会員227名、シニア会員34名、学生会員38名、団体会員2団体。

前年度比：名誉会員±0名、賛助会員±0社、一般会員－8名（入会4名、シニア会員への種別変更6名、学生会員からの種別変更2名、退会8名）、シニア会員＋4名（退会2名、一般会員からの種別変更6名）、学生会員＋14名（入会16名、退会0名、一般会員への種別変更2名）、団体会員±0団体。

2) シニア会員を募集し、応募のあった6名の会員について承認した。

3) 第15期会長選挙および評議員選挙を実施した（選挙管理委員長 星野安治）。第15期会長に百原 新会員、第15期評議員に井上 淳会員、工藤雄一郎会員、矢部 淳会員が選出された。

4) 第15期役員編成を行い、庶務幹事を上條信彦会員に、会計幹事を佐々木尚子会員に、広報・渉外幹事を渋谷綾子会員に、編集委員長を吉田明弘会員に、同副委員長を大山幹成会員に、行事委員長を柳原麻子会員に、自然史学会連合担当幹事は三宅 尚会員にそれぞれ委嘱した。

5) 2025年度評議員会を2024年12月7日に、総会を12月8日に、学習院女子大学（東京）で対面方式にて開催した。

6) 幹事会を2024年12月7日に対面方式、2025年4月7日、7月16日、10月21日に、いずれもZoomによるオンライン方式にて開催した。

7) 国際会議参加費助成を公募し、対象者1名を助成した。

###### 1-2. 広報・渉外

1) ニュースレター62号・63号を編集、刊行した。

2) メーリングリストによる情報配信を適宜行った。

3) ホームページの保守管理および更新を行った。

4) 会誌「植生史研究」第31巻1・2号, 第32巻1号を学会ホームページにて公開した。

### 1-3. 編集

- 1) 会誌「植生史研究」を編集し, 第33巻1号, 2号を刊行した。
- 2) 会誌「植生史研究」第32巻1号をJ-STAGEにて公開した。
- 3) 投稿規定を改定した。

### 1-4. 行事

- 1) 第39回日本植生史学会大会を2024年12月7日・8日に学習院女子大学(東京)にて開催した。大会実行委員長: 工藤雄一郎, 大会実行委員: 能城修一, 浦 蓉子, 柳原麻子  
参加人数は, シンポジウム100名(うち会場64名, オンライン36名), 大会参加者84名(うち一般会員42名, 学生会員17名, シニア会員6名, 非会員19名)であった。
- 2) 第52回談話会を2025年1月18日に国立科学博物館筑波研究施設にて開催した。内容は若手を対象とした葉の化石同定。参加人数は, 10名定員に対し13名(一般会員3名, 学生会員3名, 非会員8名)であった。
- 3) 第53回談話会を2025年8月28日に日本第四紀学会と共催で松江市にて開催した。テーマは「松江周辺の植生」。参加人数は5名(うち一般会員4名)であった。
- 4) 第40回日本植生史学会大会を2025年11月に岡山理科大学(岡山市)において開催するべく準備した。大会実行委員長: 那須浩郎, 大会実行委員: 藤木利之, 實吉玄貴, 黒木 出, 上田圭一, 森 将志, 前田仁暉, 正木智美, 浦 蓉子, 柳原麻子
- 5) 第54回談話会を2025年12月に岡山市にて開催するべく準備した。テーマは「岡山の花崗岩植生と古代山城」。

## 2. 2025年度決算報告, 会計監査報告

2025年度の決算が報告され, 村上由美子会計監査より適正に処理されていたことが報告された。

## 3. 第8回論文賞

論文賞は「植生史研究」第31巻第1・2号(2022年10月刊行)～第32巻第2号(2024年4月刊行)の7本の総説・原著論文を審査対象とした。日本植生史学会表彰規程に則って, 第8回論文賞審査委員会(江口誠一委員長, 佐々木由香委員, 那須浩郎委員, 三宅 尚委員, 矢部 淳委員)を設置し, 厳正な審査を行った。その結果, 2本とも論文賞候補に値するという評価であった。このため, 2本を論文賞に決定した。

○第32巻第1号の原著論文「関東堆積盆地西部の葉化石群集から復元した前期更新世のブナ属優占林の構成種と分布状況」(伊藤彩乃・百原 新・福嶋 徹・福嶋 泉)。

選考理由: 当論文は, 関東堆積盆地の狭山丘陵に分布する, 下部更新統狭山層から産出した現生種と化石種が混在する葉化石群集について, 種レベルで同定・記載した上で, その産状と組成, 現生種の生態情報などにに基づき, 約160万年前の詳細な植生構造や立地環境を議論している。この内容は, ブナとイヌブナが優占する現在の様相に近いブナ林の存在を示唆する最も古い記録であり, 日本の温帯林の発達史を解き明かす上で重要である。以上の点から, 当論文は植生史研究に大きく貢献するものとして, 論文賞候補に値する。

○第32巻第1号の原著論文「別府湾堆積物の花粉および微粒炭分析に基づく後期完新世における照葉樹林の衰退過程」(嶋田美咲・高原 光・加 三千宣・池原 研・入野智久・山本正伸・山田圭太郎・竹村恵二)。

選考理由: 当論文は, 詳細に年代決定され, 時間解像度も高い花粉分析データに基づき, 大分県を含む九州地方の歴史資料を参照しながら, 別府湾周辺における完新世後期の植生変遷と人間活動との関わりを議論している。クリ属, シイ属, オニガシ属花粉のSEM像を用いた同定・計数結果は, 照葉樹林の発達史に関わる研究のさらなる進展を促す重要な知見を含んでいる。以上の点から, 当論文は植生史研究に大きく貢献するものとして, 論文賞候補に値する。

## 5. 第10回優秀発表賞

日本植生史学会表彰規程に則って, 第10回優秀発表賞審査委員会(吉田明弘委員長, 江口誠一委員, 那須浩郎委員, 大西智和委員, 百原 新委員)を設置し, 審査を行った。その結果, 第39回大会の第10回日本植生史学会優秀発表賞は, 口頭1件, ポスター3件の発表に決定した。

O-12 神澤郁美・佐々木由香・植木雅博「レプリカ法による弥生土器製作に用いられた布目圧痕の観察」

P-04 鳥江夏希・渡邊正巳・入月俊明・岩谷北斗「花粉分析に基づく宮崎県児湯郡鮮新-更新統高鍋層の古環境復元」

P-18 前田仁暉・渡邊英明・星野安治「曲物の年輪年代からみた福井県一乗谷朝倉氏遺跡の暦年代検討-年輪年代と紀年銘資料との比較から-」

P-21 井原佑弥・林 尚輝・井上 淳「和歌山県生石高原における土壤中の植物珪酸体・微粒炭分析による植生と火の歴史の解明」

## 6. 国際会議参加費助成

国際会議参加費補助申請について, 平岡和会員より

## 2025年度決算報告(2024年10月1日～2025年9月30日)

収 入	2025年度予算	2025年度決算	
一般・シニア・学生会員会費	1,605,000	1,482,000	一般会員 6,000 円× 211 件, シニア会員 3,000 円× 36 件, 学生会員 3,000 円× 36 件
団体・賛助会員会費	36,000	56,000	団体会員 8,000 円× 2 団体, 賛助会員 20,000 円× 2 口
会誌売上(特別号含む)	5,000	2,860	送料 860 円含む
利息	300	7,874	
2025 年大会貸付金返金・剰余金	100,000	152,555	第 39 回(東京)大会
学術著作権料	100,000	105,756	2024 年度 107,720 円, 2023 年度 108,764 円, 2022 年度 103,982 円
小計	1,846,300	1,807,045	
前年度繰越金	5,476,480	5,476,480	
別途会計からの繰入れ	809,472	809,472	
合計	8,132,252	8,092,997	
支 出			
学会事務委託経費			
基本業務委託	450,000	415,462	会員管理(700 円× 324 件), 受付業務 120,000 円, ML 管理配信 17,000 円等
発送等手数料	80,000	53,857	会費請求 2 回等
委託業務経費実費分			
郵送費	240,000	103,751	年会費請求書郵送 2 回, 会誌郵送 1 回, ニュースレター 2 回等
払込取扱票・封筒印刷費	100,000	8,580	年会費請求書印字代等
コピー代	30,000	17,248	ニュースレター, 選挙関連書類の印刷含む
会誌印刷費			
会誌印刷費	1,050,000	547,250	第 33 巻 1 号, 2 号
選挙費(会長・評議員)			
投票用紙製作・発送費	150,000	183,484	選挙返信用封筒(長 4)の印刷含む
大会費			
大会準備金	100,000	100,000	第 40 回(岡山)大会
大会貸付金	100,000	100,000	第 40 回(岡山)大会
事務経費			
郵送費	10,000	27,968	会誌バックナンバー移動郵送費等
一般事務経費	15,000	6,407	文房具, 銀行振込み手数料等
広報・HP 管理	12,000	11,682	サーバー/ドメイン契約料, HP サイト管理等
J-STAGE	5,000	0	入力作業アルバイト代(500 円/件)等
幹事会など会議等			
旅費	125,000	5,380	会計監査旅費
自然史学会連合分担金	20,000	20,000	20,000 円/年
行事費			
オンライン経費	5,000	0	オンライン研修等 Zoom 契約料
講師謝金	50,000	10,000	談話会・巡検等
表彰関係			
奨励賞副賞	60,000	60,000	30,000 円× 2 件
奨励賞関連経費	10,000	10,000	5,000 円× 2 件
優秀発表賞関連経費	120,000	30,000	30,000 円× 1 件
国際会議等への参加助成	250,000	100,000	100,000 円× 1 件
予備費	100,000	0	
合計	3,082,000	1,811,069	
次年度繰越金	5,050,252	6,281,928	

応募があり, 幹事会にて厳正に検討した結果, 20th Conference of the International Workgroup for Palaeoethnobotany (IWGP) Groningen, the Netherlands での発表を助成の対象にすることに決定した。

## 7. PDF 公開のアンケート調査について

アンケート結果の内容について, 大山行事副委員長よりパワーポイントを用いた詳細な説明があった。会誌のフ

ルオープンアクセス化に関するアンケート調査を実施した。回答総数は 33 件で, 内訳は賛成 31 件, 反対 2 件であった。

## 8. 自然史学会連合活動報告

1) 日本学術会議および関連学会の動向やイベント開催の情報などを収集し, その一部は本学会 ML を通じて会員に周知した。

2) 2025 年 6 月 15 日に実施された 2025 年度自然史学

会連合総会（オンライン）に出席した。

3) 昨年度の公開講演会（11/10, ふじのくに地球環境史ミュージアム）、中高生向けシンポジウムなどの各種後援行事の実施報告、「科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書（発起団体：生物科学連合）」への賛同・署名（要望書の発出後、若干の増額が実現）、国立自然史博物館設立準備委員会とワーキンググループの活動報告（遠藤会長+運営委員2名が入会）などがあった。主な審議事項として、昨年度会計決算・監査報告、本年度の会計監査団体（日本蜘蛛学会）、本年度事業・予算案、運営体制などのほか、本年度の公開講演会（11/1, 島根大学エスチュアリー研究センターで開催）、代表選挙（本年度末を目的に臨時総会（オンライン）で実施）、日本学術会議自然史・古生物学分科会主催「国立沖縄自然史博物館関連シンポジウム」への共催依頼などがあった。審議の結果、いずれも異議なく了承された。

## II. 審議事項

### 1. 2026年度事業計画

以下の点が、賛成多数で承認された。

#### 1-1. 庶務

- 1) 2026年度評議員会を2025年11月29日に岡山国際交流センターにて、総会を2025年11月30日に岡山理科大学にて開催する。
- 2) 第15回奨励賞の選定を行う。
- 3) 第11回優秀発表賞の選定を行う。
- 4) 国際会議参加費助成を公募する。
- 5) 幹事会を3回程度開催する。

#### 1-2. 広報・渉外

- 1) メーリングリストによる情報発信を適宜行う。
- 2) ニュースレターを編集・刊行し、配信はメーリングリストを中心に行う。
- 3) ホームページの保守管理および更新を行う。
- 4) 会誌「植生史研究」第32巻2号を学会ホームページにて公開する。

#### 1-3. 編集

- 1) 会誌「植生史研究」を編集し、第34巻1・2号合併号、第35巻1号、2号を刊行する。
- 2) 会誌「植生史研究」PDFをJ-STAGEにて公開する。

#### 1-4. 行事

- 1) 第40回日本植生史学会大会を2025年11月29・30日に岡山理科大学（岡山市）にて開催する。大会実

行委員長：那須浩郎、大会実行委員：藤木利之、實吉玄貴、黒木 出、上田圭一、森 将志、前田仁暉、正木智美、浦 蓉子、柳原麻子

2) 第54回談話会を2025年12月1日に岡山市にて開催する。テーマは「岡山の花崗岩植生と古代山城」。

3) 第41回日本植生史学会40周年記念大会を2026年12月5・6日に大阪公立大学（大阪市）にて開催するべく準備する。

4) 第55回談話会（時期・場所未定）を対面方式にて開催するべく準備する。

### 2. 内規の改正

以下の内規が実施されることが承認された。

「論文賞に関する内規」について、第2条に「なお、論文賞審査委員に対象年度の編集委員を含まない。」の文言を付記する。

### 3. 会誌「植生史研究」のフルオープンアクセス化

会誌「植生史研究」のフルオープンアクセス化を進めるべく準備する。併せて、会員サービスを充実させていく。

### 4. 2026年度予算案（別紙予算案）

2026年度予算案について賛成多数で承認された。なお、一部支出に関する文言の修正が求められた。

### 5. 会計監査の選出

第14期会計監査であった井上 淳会員が10月1日より評議員に就任したことに伴い、残り任期を担当する会計監査として村上由美子会員が選出された。

### 6. その他

特になし。

### 会員動向（2025年7月～2025年11月）

#### 新入会員（敬称略）

大石加奈（学生）昭和女子大学  
小池咲菜（学生）千葉大学  
高嶋千聡（学生）昭和女子大学  
成川詩歩（学生）昭和女子大学  
林 優衣奈（学生）学習院女子大学  
前田明日香（学生）昭和女子大学  
松井哲哉（一般）森林総合研究所

#### 退会会員（敬称略）

磯田喜義、大谷弘幸、小林真生子、水野清秀、右藤周悟、高 雅云、高橋文香、山本 華、吉田利香、小池裕子

## 2026年度予算案(2025年10月1日～2026年9月30日)

取 入	2026年度予算	
一般・シニア・学生会員会費	1,560,000	一般会員 6,000 円× 220 件, シニア会員 3,000 円× 40 件, 学生会員 3,000 円× 40 件
団体・賛助会員会費	36,000	団体会員 8,000 円× 2 団体, 賛助会員 20,000 円× 1 社
会誌売上(特別号含む)	5,000	送料含む
利息	7,000	
大会貸付金返金	100,000	第 40 回(岡山)大会
学術著作権料	100,000	2024 年度 107,720 円, 2023 年度 108,764 円, 2022 年度 103,982 円
小計	1,808,000	
前年度繰越金	6,281,928	
合計	8,089,928	

## 支 出

学会事務委託経費		
基本業務委託	450,000	会員管理(700 円× 320 件), 受付業務 120,000 円, ML 管理配信 15,000 円等
発送等手数料	80,000	会費請求 2 回等
委託業務経費実費分		
郵送費	240,000	年会費請求書郵送 2 回, 会誌郵送 3 回, ニュースレター 1 回等
封筒印刷費	100,000	角 2 (1000 部)・長 4 (500 部)・振込取扱票 (500 部) 等
コピー代	30,000	ニュースレター 1 回分のプリント含む
会誌印刷費		
会誌印刷費	1,050,000	第 34 巻 1・2 号合併号, 第 35 巻 1 号, 2 号
大会費		
大会準備金	250,000	第 41 回(大阪)大会
大会貸付金	50,000	第 41 回(大阪)大会
事務経費		
郵送費	10,000	会誌移動郵送費等
一般事務経費	15,000	文房具, コピー代, 銀行振込み手数料等
広報・HP 管理	12,000	サーバー/ドメイン契約料, HP サイト管理等
J-STAGE	5,000	入力作業アルバイト代(500 円/件)等
幹事会など会議等		
旅費	125,000	会計監査旅費, 自然史学会連合出張旅費, 幹事会旅費
自然史学会連合分担金	20,000	20,000 円/年
行事費		
オンライン経費	5,000	オンライン研修等 Zoom 契約料
談話会・巡検経費	200,000	講師代および談話会・巡検補助
表彰関係		
論文賞関連経費	12,000	6,000 円× 2 件
優秀発表賞関連経費	120,000	30,000 円× 4 件
国際会議等への参加助成	250,000	総額 250,000 円
予備費	100,000	
合計	3,124,000	
次年度繰越金	4,965,928	

## 第 15 期日本植生史学会役員

(任期: 2025 年 10 月 1 日～2027 年 9 月 30 日)

会 長 : 百原 新

評議員 : 矢部 淳, 井上 淳, 工藤雄一郎

幹 事 : 上條信彦(庶務), 林 竜馬(庶務副幹事,  
2025 年 12 月 1 日～), 佐々木尚子(会計), 渋谷綾子(広  
報・渉外)

編集委員会: 吉田明弘(委員長), 大山幹成(副委員長)

行事委員会: 柳原麻子(委員長), 設楽拓人(副委員長,  
2025 年 12 月 1 日～), 前田仁暉(副委員長, 2025 年  
12 月 1 日～)

自然史学会連合担当: 三宅 尚

## 各種連絡先

入会・異動・退会・講読の申し込み

(バックナンバー購入, メーリングリストアドレス登録・変  
更, メーリングリストへの投稿記事)

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12

新宿ラムダックスビル

(株)春恒社 学会事業部内 日本植生史学会事務局

TEL 03-5291-6231 FAX 03-5291-2176

E-Mail: hisbot-office01@shunkosha.com

---

その他の連絡先は、以下の通りです。

連絡・問い合わせ、転載許可申請、シニア会員申請

庶務幹事 上條信彦

〒 036-8560 弘前市文京町 1 番地

弘前大学人文社会科学部

Tel : 0172-39-3273 Fax : 0172-39-3273

E-mail : hbmain@hisbot.jp

雑誌投稿に関する問い合わせ、企業広告送付先

編集委員長 吉田明弘

E-mail : hbjournal@hisbot.jp

ホームページや企業広告に関する問い合わせ

広報・渉外幹事 渋谷綾子

E-mail : hbnews@hisbot.jp

---

#### 査読者への謝辞

植生史研究第 34 巻に投稿された論文等は下記の方々に査読していただきました。記して御礼申し上げます。

上條信彦

志知幸治

能城修一

渡邊稜也

國木田 大

高原 光

山本 華